

情報を先取り、タブーに挑戦

財界タブー

特集「金融不安、不動産不況」

横内龍三頭取が語る 新北洋銀行「嵐の船出」

12月号

公的資金注入が噂される5つの信金・信組／記者座談会「うわさの会社の危ない話」／ファンド後退で地価暴落が始まる

特集 やっぱりあった札幌市官製談合

上田市長に教えたい図解「札幌市の談合病巣」

緊急レポート 25自治体財政「このまちはコレのせいで苦しい」

林敏（制作に協力した旭川の在宅医療医）が明かす ドラマ「風のガーデン」緒形拳「最期の演技」
東京あきる野市から中標津へ移転 出戻り・ムツゴロウ王国の憂鬱

総選挙ワイド特集
オモローな話

中田輝夫が選定 YOSAKOIに何があった!?

解散先延ばしで麻生おろしも
中川昭二 VS 町村信孝
代理戦争“勃発!?”



浄化システム

設楽守良社長



全国の酪農家の悩みを 解消した廃水プラント

ヒューエンス

帯広市東4条南13丁目19番地

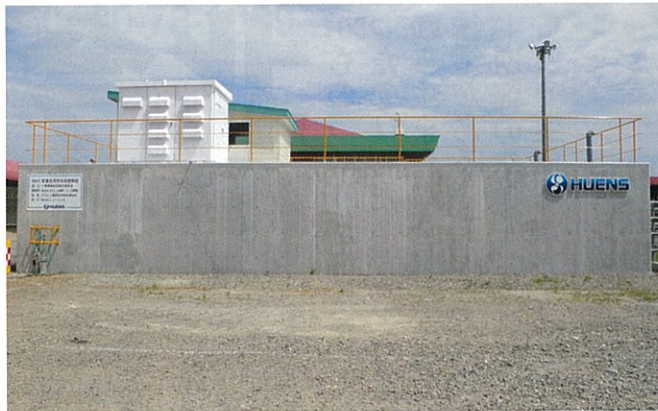
横川ビル1階

☎0155・27・0011

http://www.huens.co.jp/

全国に2万6000、道内には8000あると言われている酪農家。その悩みの一つが、搾乳後のパーラーパイプやパーラー内の洗浄廃液の処理だ。通常、排水や汚水などの処理は微生物を使った方法が主流だが、温度やpHなど環境条件の影響を受けやすい特性がある。安定した処理水質を維持するためには、レベルの高い施設および高い管理技術を要する。当然、コストもかかってしまうのだ。

ヒューエンスが開発した技術は「オゾンによる有機性廃液処理技術」。パーラー内洗浄にはアルカリ性と酸性の薬剤を使用するため、パーラー廃液は微生物処理が難しいとされていたが、オゾンの利用でこれが可能となった。しかも低コストで維持しやすい管理を実現。現在、酪農家のほか、自治体や食品加工など、すでに全国で45カ所、道内には37カ所導入されている。「低コストで維持しやすい



ホクレンの関連施設に設置されている廃水処理プラント



「環境浄化・リサイクル・省エネルギー・快適美空間創造」をキーワードに設楽社長が立ち上げたヒューエンス

廃水プラントを考えた時、浮かんだのがオゾン。オゾンは酸素原子が3つ結合した気体で、脱臭・脱色性能

に優れていることは知られていた。またオゾン発生装置も実用化されている。後はそれを効率的に利用する

ことであり、その目的で帯広畜産大学と共同研究を開始しました」と同社の設楽守良社長。同社を設立したのは1999年で、下水道維持管理会社に勤めていた際に、ある酪農家からパーラー廃液の処理について相談を受けたのがきっかけだ。その後、北海道大学井口教授の指導のもと、「オゾンによる有機性廃液処理技術」を開発、「旋回噴流式オゾン酸化法」のコアとなる攪拌（かくはん）技術で特許を取得した。

「オゾンと移送関連の機械がきちんと動く状況さえつくっておけば、お客様にとって手間のかかる管理は必要なし。従来の微生物プラントに比べ同額の投資額で処理液は河川放流レベルまで浄化でき、さらに脱臭・脱色の効果も期待できます」（設楽社長）。低コストで環境問題もクリア。酪農家にとって夢のシステムだ。